

全日本学生馬術大会2020実施にあたって

新型コロナ対策プロトコル

全日本学生馬術連盟

理事長 橋本 茂（新型コロナ対策委員長）

初めに

全日本学生馬術大会は屋外で、しかも広大な敷地の中で実施される。加えて馬術競技は、人馬が演技をする競技のため、人と人が接触する機会が少ないスポーツとは言える。とはいえ、馬匹の手入れや打合せ時などは接触する機会はある。

また競技は複数の日程にまたがり、選手や学生役員は馬匹と共に長距離の移動及び宿泊が伴う。

さらには、学生が主体となって行う競技運営は室内での業務多くある。

今回全日本学生馬術大会を実施するにあたり、感染を可能な限り防ぐためのプロトコルを作成した。

プロトコルは競技会中だけでなく、出発前、移動時、競技期間中（競技中及び競技後）、帰厩後にも言及している。

学生が対応可能な限りの対策を実行し、他の接触するスポーツとは異なる魅力を示し、人馬の交流を目指し、学生が成長する学生馬術の魅力が伝わる運営を目指す。

一部マニュアルをPC上で活用することを考慮して、参照する資料についてLinkをするため、アドレスを記載しています。

プロトコルの構成は下記の通りである

- 全体
- 大会開始前
- 大会期間中
- 大会終了後

【全体】

全日本学生馬術競技会は日本馬術連盟が制定するガイドラインを遵守し、競技会を運営実施する

<https://www.equitation-japan.com/index.php?menuindex=posts&cat=18&pno=7394#7394>

また運営にあたっては、山梨県及び山梨馬事振興センターのガイドライン等も遵守する

山梨県ガイドライン

https://www.pref.yamanashi.jp/koucho/coronavirus/info_coronavirus_measures.html

山梨馬事振興センターガイドライン

<http://www.nns.ne.jp/~baji/>

競技会は無観客で、日程を短縮して行う。

また実施にあたっては新型コロナ対策 BCP を遵守し、中止の判断を行うことがある。

但し、無観客とはいえ、未成年者が出場する可能性もあるため、保護者については各大学出場選手を上限に、入場を認めるが、各大学の選手・役員と同様に誓約書並びに日々の活動報告の実施並びにマスク使用・リストバンド使用などは必ず実施すること。他にメディア関係者なども同様とする

【大会開始前】

参加大学はコロナ感染責任者を指名し、下記を徹底させる

① 出発前競技 2 週間前から全日本学生参加予定者は、大学の指導に基づき不要不急な外出を避け、3 密行動を避ける、マスクの着用、を徹底する。寮で過ごす学生は大学のルールを順守するだけでなく、感染をより意識して行動する。

② 競技会に参加するすべての大学への要求

出場にあたって大学の許可が必要な際には、必ず提出すること。大学に提出が必要な書類に全日本学生の報告が必要な場合（大会の感染対策計画など）、は連絡すること。

③ 競技会に滞在するすべての人への要求

誓約書を競技開始前までに提出頂き、毎朝健康観察・行動記録を提出する。また Check List で、体調を確認し、不調の場合は会場内への入場は取りやめる。

提出は下記のアプリケーションで行う（全日本学生用を作成予定）

<https://all-japan-young-eventing2020.jimdofree.com/ホーム/感染症対策記録/>

また令和 2 年 10 月 10 日以前には厚生労働省による“新型コロナ接触確認アプリ”COCOA への登録を義務とし、発症者はもちろんであるが、濃厚接触者の疑いのある者は会場内への入場を禁ずる。

競技期間中は、マスク着用を必須とし、業務ではフェースガードを使用する。

また未成年者は保護者より承諾書を提出頂き、各大学馬術部で保管をする。保管するフォームは連盟作成のフォームも大学が作成したフォームでも良い。

大学によっては、学生全員に承諾書の提出を義務付けており、その際は大学で決められたルールを順守すること

④ 大会会場までの移動について

マスクの着用のみならず、フェイスシールドまたはフェイスガードを使用すること。購入にあたっては補助を全日本学生より行う。

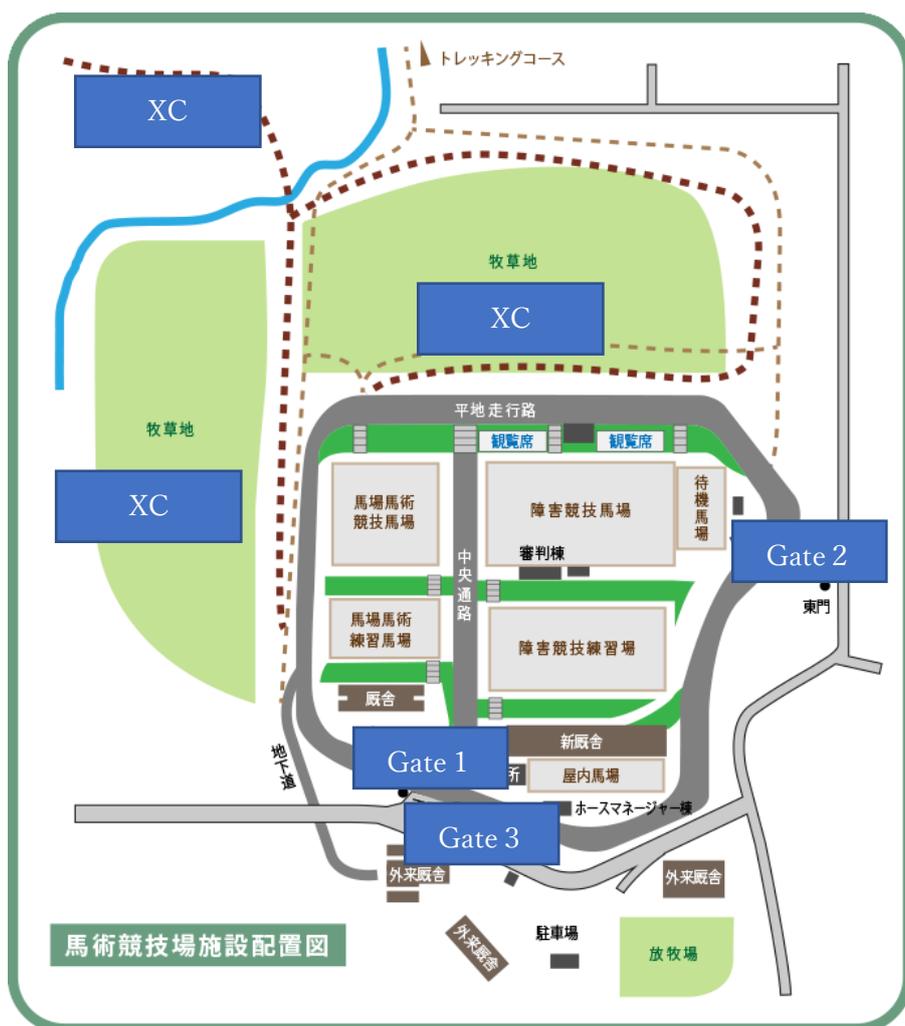


【大会期間中】

① 大会期間中の競技場内人数

10月競技会は無観客競技会とし、競技期間を短縮して実施。

② 会場レイアウト(総面積 220,000 m² W/O XC course)



<http://www.nns.ne.jp/~baji/about.html>

入場時リストバンドで大会関係者であるかないかの確認を警備員は行う

Gate1 警備員配置（入退場管理）7：00～20：00

Gate2 Closed

Gate3 警備員配置（入退場管理）7：00～20：00

③ 大会期間中の競技場内人数

10月25～29日（入厩が開始され徐々に人数が増える。練習時間は各大学或いは地区ごとにかさならないように設定し、本部以外は密にはならない状況を作る。）

オープン時間 8：00～18：00 最大総計 600名 内訳 参加大学数 約40校、大会関係者 60名、選手200名、グループ200名、指導者 40名、その他 保護者、メディア等 100名

10月30日（30日以降 Webにて打ち合わせ会を行う）

オープン時間 7：00～18：00 600名 内訳 参加大学数 約40校、大会関係者 60名、選手200名、グループ200名、指導者 40名、その他 保護者、メディア等 100名 お店 5名（馬具等3）

10月31日 競技 トレーニング競技

オープン時間 6：00～18：00

600名 内訳 参加大学数 約40校、大会関係者 60名、選手200名、グループ200名、指導者 40名、その他 保護者、メディア等 100名、お店 5名（馬具等3）

11月1日 競技 学生賞典障害 2回走行

オープン時間 6：00～18：00

600名 内訳 参加大学数 約40校、大会関係者 60名、選手200名、グループ200名、指導者 40名、その他 保護者、メディア等 100名、お店 5名（馬具等3）

11月2日 競技 学生賞典馬場 学生賞典総合調教審査 L級馬場

オープン時間 6：00～18：00

400名 内訳 参加大学数 約35校、大会関係者 60名、選手110名、グループ110名、指導者 40名、その他 保護者、メディア等 70名、お店 5名（馬具等3）

11月3日 競技 学生賞典総合 耐久審査・余力審査 M-D 障害

300名 内訳 参加大学数 約35校、大会関係者 60名、選手70名、グループ70名、指導者 30名、その他 保護者、メディア等 50名、お店 5名（馬具等3）

④ 競技場内の管理について

全員が管理された状態である。入場時、団体用申請書を提出し、人数分のリストバンドを渡す。その後は、リストバンドによる確認と誓約書・体調管理・行動表の提出状況の確認を行う。

入退場は外部警備会社の警備員によって管理される。出入り口には非接触性の体温計を設置し、要望があった際には測定が出来るようにする。また体温測定の意識向上のために、抜き打ちで体温を測ることがある。

競技場内はスタッフにより見回りを行い、密とならないように注意喚起を行う

誓約書、体調管理・行動表を提出及び管理・チェックは Web サイト（アプリ）で行う
提出する先のアプリ

<https://all-japan-young-eventing2020.jimdofree.com/ホーム/感染症対策記録/>

⑤ 厩舎のレイアウト

タッグルームとなる厩舎を全大学に配分し、他大学との接触を避け、大学ごとに行動が出来るようにする。

厩舎地区に居る際には、マスクを必ず着用する。

⑥ 注意喚起

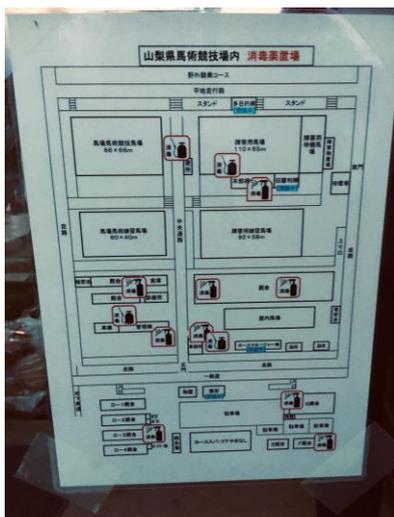
サインボードを各所に置き、啓発するとともに競技中にアナウンスを行う。またリストバンドを配布する際、各大学に渡し、タッグルームに掲示及び日々の打合せ時に注意喚起を必ず行う。



また Web 及び放送で案内を行うことと下記の注意喚起を各所に張って、注意を促す。スチュワード或いはガードマンが1時間ごとに巡回し、マスクの装着・密の回避の注意をする

⑦ 感染対策

手指消毒用のアルコール及び消毒薬を13箇所設置（競技場出入口、厩舎出入口、Office、他）する。
会場入退場時及び Office への入場時にはアルコール消毒を実施徹底する。



⑧ 関係者への情報伝達

Meeting をビデオ会議 (ZOOM) で実施。また抽選、出番表、成績表、連絡事項は Web site (アプリ) で
行い、集合は行わない。アプリは下記と同じものを使用する。

<https://all-japan-young-eventing2020.jimdofree.com/?fbclid=IwAR18Mx6tdhOBh1d9rzaol4c4wvPP7XJGwgRnyWudebsNvE3D5PHWzdfI0zw>

⑨ Fence Judge Meeting

ビデオ会議で実施。感染が気になる場所 (例えばルール説明を発信する場所で複数の人がいる場合) では
フェイスガードを使用する。

⑩ オフィス内

寒い時期ではあるが、窓を開放し業務を行う。寒い場合は 1 時間に 1 回空気の入替えを行う。ドアノ
ブなど人が手に触れる部分についても 2 時間おきにアルコールで消毒を行う。マスク着用は必須とし、
会話が必要な場所ではフェイスガードを使用する。

- a) 馬場馬術 審判ボックスはオープンにし、審判・スコアラーはフェイスガード使用予定。
- b) クロスカントリー 集計室はアクリルボードにより、仕切を作る。
- c) 障害競技 審判等は窓を開け、かつアクリル板で仕切る



- d) 放送室 入室を1名とし、入退場時窓を開け、換気を徹底する
- e) 事務室 換気のため窓を開放し、業務を行う。寒い場合は1時間に1回空気の入れ替えを行う。

⑪ 出店について

馬具など競技会場で選手・グループが必要となる関連製品のお店は誘致する。
密とならない場所を指定し、店員にはフェイスガード及びマスク着用及び定期的なアルコール消毒を義務付け、徹底させる。

⑫ 競技補助員

マスク着用義務とする。密となるような場所での作業はフェイスガードを使用する。

⑬ 大会期間中の移動について

移動は原則大学ごとに行い、車中はマスクを使用し、エアコンなど空気を循環した環境で行うことを徹底させる。乗車定員一杯の人数で移動する場合は、運転手はマスクを使用、その他の乗員はフェイスガードを使用することとする

⑭ 大会期間中の宿泊について

宿泊は大学ごとに予約し宿泊すること。食事はソーシャルディスタンスを確保できる施設で取る。選手・グループは他大学との交流は避け、食事が終了後速やかに自室に戻り過ごすこと
相部屋の場合は、可能な限り距離を取り、マスクを必ず着用すること。

⑮ 医療体制

入厩初日より、看護師など医療専門家を1名配置（コロナ対策含めた医療体制）
競技前日（トレーニング競技）及び競技三日間 Dr1名及び看護師1名或いは2名配置

【大会終了後】

移動にあたっては、マスク及びフェイスガードを使用すること
また帰厩後は、最低2週間は待機者と直接交流しないように、班を分けた繋養・練習体制を取ることに